

雪の講演会 青森県の大雪災害の実態と 今後の冬に向けて

参加無料
事前申込

2024/2025年冬季は、青森県津軽地方を中心に記録的な大雪となり、弘前では1982年観測開始以来の最大積雪深160cmを記録しました。これに伴い、青森県では人的被害181名、住家被害144件、非住家被害409件となり、農業関係の被害額は約215億円(うちリンゴの枝折れ被害だけで過去最高の約203億円)にのぼりました。12月下旬から湿った重い雪が降り積もり、あるいは、着雪・冠雪して倒木・枝折れが生じ、道路や鉄道の交通障害が多発しました。本講演会では、昨冬の大雪災害の実態を振り返り、変容する雪氷災害に適応するためにどのように備えるべきか、科学的なデータや最新の情報を基に考えます。

プログラム

開会挨拶 (18:00-18:10)

飯塚 聡 (防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域 研究領域長)

江川新一 (東北大学 災害科学国際研究所 研究所長補佐)

第一部 講演 (18:10-18:50)

「2024/25年冬の青森県の大雪災害の実態」

大雪をもたらした気象環境場

石田祐宣 (弘前大学 大学院理工学研究科 准教授)

青森県津軽地方における積雪調査結果

荒川逸人 (防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 特別研究員)

雪害時の文化遺産保全と地理空間情報の活用

蝦名裕一 (東北大学 災害科学国際研究所 准教授)

令和6年12月からの豪雪によるりんご被害の状況

工藤秀樹 (青森県 農林水産部りんご果樹課 総括主幹)

第二部 パネルディスカッション (19:00-19:55)

「変容する雪氷災害に適応するために」

● 話題提供

将来の降雪はどのように変化するか

山崎 剛 (東北大学 大学院理学研究科 教授)

持続可能な除排雪体制の構築にむけて～青森ゆきみちDX～

鈴木英宗 (青森県 県土整備部道路課 課長)

● 討 論

コーディネーター

中村一樹 (防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長)

パネラー

石田祐宣 (弘前大学 大学院理工学研究科 准教授)

山口 悟 (防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 上席研究員)

山崎 剛 (東北大学 大学院理学研究科 教授)

鈴木英宗 (青森県 県土整備部道路課 課長)

閉会挨拶 (19:55-20:00)

金本俊幾 (弘前大学 大学院理工学研究科 研究科長)

本講演会では、2025年5月30日に締結された「青森県と弘前大学および防災科学技術研究所の包括的連携協力に関する協定」に基づく研究と、東北大学－防災科学技術研究所マッチング研究支援事業採択課題「気候変動による雪の質の変化に関する情報創出と利活用に関する研究」の成果の一部を発表します。



津軽平野での
積雪調査の様子



弘前公園での倒木調査
(約100年の弘前城二の丸末申櫓)



りんごの木の枝折れ
(津軽地方で
甚大な被害)

2025

12.1月

18:00-20:00

(17:30開場)

定員: 150名

定員になり次第、締め切りと
させていただきます

会 場: 弘前市民文化交流館ホール
青森県弘前市駅前町9-20 ヒロロ 4F

申込方法: 下記のURLまたはQRコードから
お申込下さい

<https://www17.webcas.net/form/pub/bosai/snow>

申込締切: 2025年11月27日(木)

問い合わせ先:

防災科学技術研究所
極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センター
新潟県長岡市栖吉町前山187-16 Tel: 0258-35-7520



主 催: 防災科学技術研究所、弘前大学
共 催: 東北大学
後 援: 青森県、弘前市、日本雪氷学会東北支部
日本雪工学会北東北支部



防災科研



弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY



東北大学